「めざせ ひらがな めいじん」

―小学校１年生に対する MIM を発展的に活用した 特殊音節の指導を通じて―

長野市立城山小学校 鈴木 海平

言葉を動作化した取り組み

★ルールに則り特殊音節を動作化⇒感覚的に学習できるように

①毎日の予定の確認

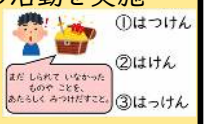
朝の会での当番の活動として、その日の予定（教科名・単元名等）を動作化した。

②毎日の給食メニューの確認

教師が作成したスライドをもとに、「ひらがなめいじん係」が前で動作化を行い、それに全体が続いた。係は週で交代し全員が経験できるようにした。

龍門タイムの運用

★週に2回の朝の活動の時間に、2種類の活動を実施



①ひらがなクイズ

言葉の説明を行い、それに合うものを自分で考えて手を挙げるクイズを行った。

②ひらがなプリント

約 100 種類ある特殊音節別のプリントを自分で選択して取り組めるように環境を整えた。支援計画に基づき、低位の児童については、選択の幅を提示することもあった。

MIM に取り組んだ背景

・清音に比べ特殊音節の習得は難しい

・漢字単語の読み障害が併発する可能性

保護者との連携

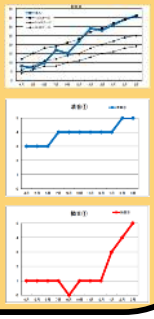
★個別懇談会で結果の共有

希望によるが、最大3回、総合得点だけでなく、特殊音節別の結果も共有した。

【保護者からの感想より】

●日記で特殊音節が入った言葉を書こうとして迷っているときに，まずは動作化をし，確認してから書くようになった。動作化をすると分かりやすいようだ。自分の力で書こうとする姿勢が増えた。

●漠然と国語が苦手かもしれないと思っていたが，苦手にしていた部分が分かりやすく見えたので，家で学習をするときに気を付けてみてみたい。



学習習慣形成支援員との連携

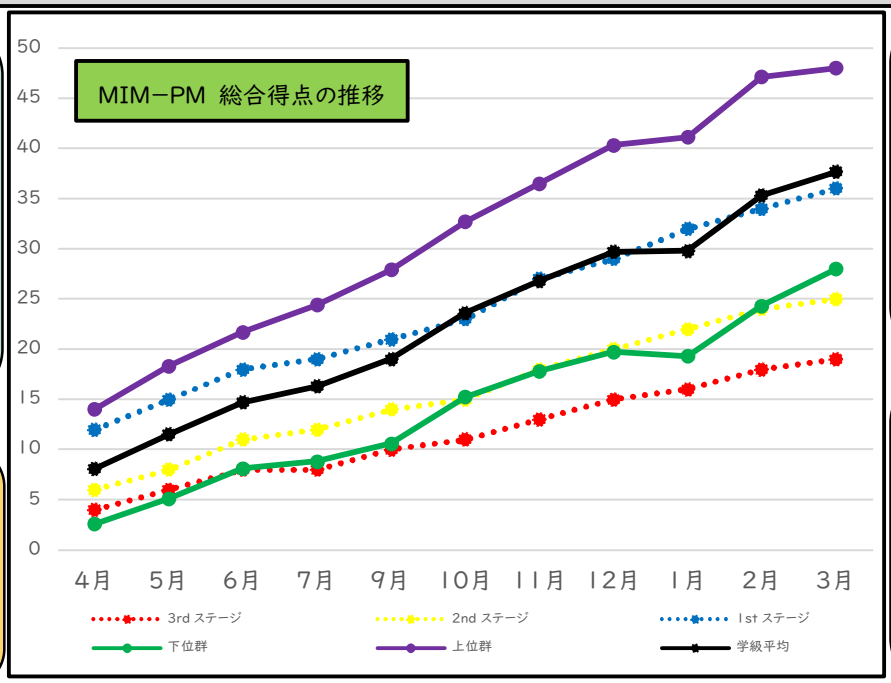
★データに基づいた月別の支援計画の作成・役割分担

検証テストの結果を入力すると、連動して個別の支援・配慮が必要な児童が抽出されたり、特殊音節別の課題が分かるように色付けされたりする仕組みを整えた。それを基に、学習習慣形成支援員と、月ごとの支援方法や支援体制を検討・共有し、実施した。

名前	総合得点	テスト①	テスト②	テスト③	清音	濁音・半濁音	長音	拗音	撥音	促音	清音	濁音・半濁音	長音	拗音	撥音	促音	学習の様子の再観察	消失の配慮	実態指導の重点化・個別指導	特殊音節のルールの再確認	家庭との連携
		テスト①									テスト②						個別の配慮計画				
A	19	10	9		2	2	2	2	2		2	2	2	2	1		担任	✓	担任	全体指導時	
B	10	6	4		2	2	1	1			1	1	1	1			支援	✓	支援	個別指導時	✓
C	6	3	2		1	1	1				1	1					担任・支援	✓	担任・支援	個別指導時	✓

MIM-PM という検証テストを月に一度実施し、標準得点表に記載の習得段階（3rd～1st）に照らし合わせ、上記の取り組みを継続した。

教科名や主食名・牛乳などの固定化した単語は児童にとっての自信につながり、単元名や主菜・副菜などの毎日変わる単語は、新鮮な気持ちで取り組んでいる様子があった。様々な単語の動作化に挑戦し、習慣づけて取り組んでいくことは有効だったと考える。



ひらがなプリントの活動において、上位群の児童は、時間内に多くの枚数に取り組んだ。下位群の、特に低位の児童に対しては、個別に選択の幅を提示し、丁寧に確認しながら取り組んだ。どちらの群も自分の力を伸ばすことにつながっていた。

9月・12月の個別懇談会後（1月は一度落ち込むが）、特に大きな伸びがあった。結果を共有し、今後の対応を検討したことが、家庭での理解・協力につながったと考える。

４月の入学から7月頃まで、自分の名前も読めず、ひらがなの形とその音が全く一致しない児童が３名いたが、最終的な総合得点の平均が21ポイントまで上昇した。連携した支援体制を継続できたからだと考える。